

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	4		矢板工（指定仮設・任意仮設は除く） （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基準高 $\nabla$	±50
						根 入 長	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	1	法枠工 （現場打法枠工） （現場吹付法枠工）	変 位 $\ell$	100
						法 長 $\ell$	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	2	法枠工 （プレキャスト法枠工）	$\ell < 10\text{m}$	-100
						$\ell \geq 10\text{m}$	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	3	幅	w	-30
						高 さ h	-30
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	4	枠中心間隔 a	a	±100
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	5	延 長 L	$\ell < 10\text{m}$	-100
						$\ell \geq 10\text{m}$	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	延 長 L	-200
						法 長 $\ell$	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	$\ell < 3\text{m}$	-50
						$\ell \geq 3\text{m}$	-100
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	t < 5 cm	-10
						t ≥ 5 cm	-20
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	但し、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上	
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は、施工延長 20m（測点間隔 25m の場合は 25m）につき 1 箇所、延長 20m（又は 25m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 枠延長 100m につき 1 箇所、枠延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		曲線部は設計図書による
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m につき 1 箇所、40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所以上、200 m <sup>2</sup> 以下は 2 箇所をせん孔により測定。 1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	種	測定項目	規格値
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法 延長 $\ell$ 盛土法 延長 $\ell$	$\ell < 5 \text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の - 4 %
							$\ell < 5 \text{ m}$	-100
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の - 2 %
延長 L							-200	
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 $\ell$ 厚さ t	$\ell < 5 \text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の - 4 %
							$t < 5 \text{ cm}$	-10
							$t \geq 5 \text{ cm}$	-20
但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。								
延長 L							-200	
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	緑石工 (縁石・アスカープ)	延長 L	-200	
3	土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	9	小型標識工	設置高さ H 基礎 幅 w (D) 高さ h 根入れ長	設計値以上	
							-30	
							-30	
							設計値以上	

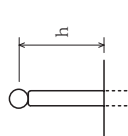
測定基準	測定箇所	摘要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m につき 1 箇所、40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工面積 200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所、面積 200 m <sup>2</sup> 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 検査孔により測定。		
1 施工箇所毎		
1 箇所 / 1 施工箇所		
1 箇所 / 1 基 基礎 1 基毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	種	測定項目	規格値
3	2	3	10		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎 パイプ取付高 H	幅 w	-30
							高さ h	-30
								+30 -20
3	2	3	11	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎 ビーム取付高 H	幅 w	-30
							高さ h	-30
								+30 -20
3	2	3	11	2	路側防護柵工 (ガードケープル)	基礎 ケープル取付高 H	幅 w	-30
							高さ h	-30
							延長 L	-100
								+30 -20

測定基準	測定箇所	摘要
<p>単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下 のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基に つき 1 箇所測定。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>1 箇所 / 施工延長 40m 40m 以下のものは、2 箇所 / 1 施工箇 所。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>1 箇所 / 1 基礎毎</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		

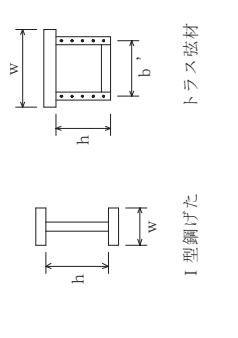
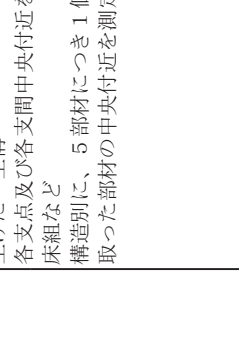
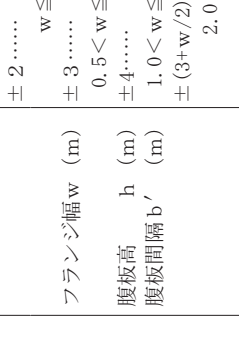
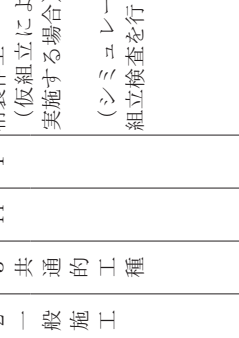

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
各縦種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		

編	章	節	条	枝番	工種	種	測定項目	規格値
3	2	3	12		区画線工		厚さ t (溶融式のみ) 幅 w	設計値以上 設計値以上
3	2	3	13		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)		高さ h	±30

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	14	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合)  (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	フランジ幅 w (m)  腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	± 2 …… w ≤ 0.5 ± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0 ± 4 …… 1.0 < w ≤ 2.0 ± (3+w/2) 2.0 < w
						板 鋼 げ 及 び ト ラ の ス 等 の 部 材 の 腹 平 面 箱 げ 及 び ト ラ ス 等 の フ ラ ン ジ 度 δ 鋼 床 版 の デ ッ キ (mm) プ レ ー ト	h / 250  b / 150
					部 材 精 度	フランジの直角度 δ (mm)	w / 200
					部 材 長 ℓ (m)	鋼 げ 及 び ト ラ ス、 ア ー チ 等	± 3 …… ℓ ≤ 10 ± 4 …… ℓ > 10
						圧縮材の曲がり δ (mm)	± 2 …… ℓ ≤ 10 ± 3 …… ℓ > 10
							ℓ / 1000

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
鋼 げ 等 ト ラ ス ・ ア ー チ 等		I 型 鋼 げ 及 ト ラ ス 弦 材
主 げ 及 び 各 支 間 中 央 付 近 を 測 定。 各 支 点 及 び 各 支 間 中 央 付 近 を 測 定。 床 組 等 構 造 別 に、5 部 材 に つ き 1 個 放 き 取 っ た 部 材 の 中 央 付 近 を 測 定。		
主 げ 及 び 各 支 間 中 央 付 近 を 測 定。 各 支 点 及 び 各 支 間 中 央 付 近 を 測 定。		
h : 腹 板 高 (mm) b : 腹 板 又 は リ ブ の 間 隔 (mm) w : フ ラ ン ジ 幅 (mm)		
原 則 と し て 仮 組 立 を し な い 状 態 の 部 材 に つ い て、主 要 部 材 全 数 を 測 定。		
—		主 要 部 材 全 数 を 測 定。 ℓ : 部 材 長 (mm)

※規格値の w, ℓ に代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲がり δ」の規格値の h, b, w, ℓ に  
代入する数値はmm単位の数値とする。

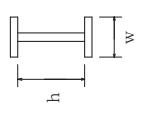
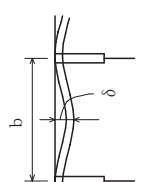
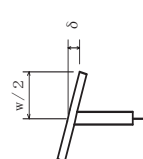
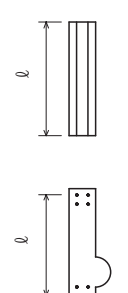
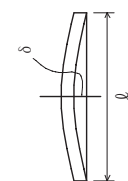
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	14	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	全長、支間長 L (m)	$\pm(10+L/10)$
						主げた、主構の中心 間距離 B (m)	$\pm 4 \dots\dots B \leq 2$ $\pm(3+B/2)$ $\dots\dots B > 2$
						主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots\dots h \leq 5$ $\pm(2.5+h/2)$ $\dots\dots h > 5$
						主げた、主構の通り $\delta$ (mm)	$5+L/5 \dots\dots$ $L \leq 100$ $25 \dots\dots L > 100$
						主げた、主構のそり $\delta$ (mm)	$-5 \sim +5 \dots\dots l \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots\dots$ $20 < l \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots\dots$ $40 < l \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots\dots$ $80 < l \leq 200$
						主げた、主構の橋端 における出入差 $\delta$ (mm)	設計値 $\pm 10$
						主げた、主構の鉛直 度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$
						現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	5 ※ $\pm 5$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
トラス・アーチ等		
主げた、主構全数を測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
—		
最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)		
各主げたについて各主構の各格点を10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長 (m)		
どちらか一方の主げた (主構) 端を測定。		
各主桁の両端部を支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)		
主げた、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は、耐侯性鋼材 (裸使用) の場合		

※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「主げた、主構の鉛直度 $\delta$ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。


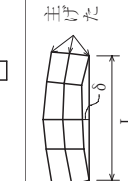
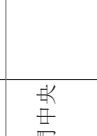





単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取っ た部材の中央付近を測定。	 I型鋼げた	
主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)		
主要部材全数を測定。		
主要部材全数を測定。		
主要部材全数を測定。		

※規格値の w、 $\ell$  に代入する数値はm単位の数値である。  
 ただし、「板の平面度  $\delta$ 、フランジの直角度  $\delta$ 、圧縮材の曲り  $\delta$ 」の規格値の h、b、w、 $\ell$  に  
 代入する数値はmm単位の数値とする。

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	14	2	桁製作工 (仮組立検査を実施し ない場合)	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots$ w $\leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$
						腹板高 h (m)	0.5 < w $\leq 1.0$
						腹板間隔 b' (m)	$\pm 4 \dots\dots$ 1.0 < w $\leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ 2.0 < w
						鋼げた等の部材 の腹板	h / 250
						箱げた等のフラ ンジ鋼床版のデ ッキプレート	b / 150
						フランジの直角度 $\delta$ (mm)	w / 200
						鋼げた 部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$
						トラス、アーチ など	$\pm 2 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 3 \dots\dots$ $\ell > 10$
						圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$\ell / 1000$

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要 (仮組立を実施)
トラス・アーチ等 両端部及び中心部を測定。		工場
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線長 (m)		工場
各主桁の両端部を支点及び支間中央付近を測定。		工場
主桁、主構全数を測定。		現場
各支点及び各支間中央付近を測定。		現場
L：主桁、主構の支間長 (m)		現場
どちらか一方の主桁（主構）端を測定		現場
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		現場
		現場

※規格値のL、B、hに代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「上げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

編 章 節	枝 番 条	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	主構の組立高さ h (m)	±5……h≤5 ±(2.5+h/2) ……h>5
			主桁、主構の通り δ (mm)	5+L/5…… L≤100 25……L>100
			主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000
			全長、支間長 L (m)	±(10+L/10)
			主桁、主構の中心間 距離 B (m)	±4……B≤2 ±(3+B/2) ……B>2
			架設完了キャンパ ー δ (mm)	L≤40…… ±25mm L>40…… ±(25+(L-40))
			主桁、主構の 橋端における出入差 δ (mm)	10
			現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> 、δ <sub>2</sub> (mm)	5 ※±5
			平面対角線長 δ (mm)	δ   ≤15mm

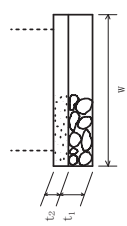
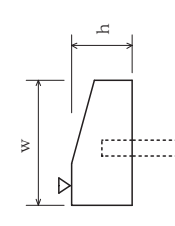


単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数を測定。	<p>図 a 格子形鋼製砂防ダム 図 b 鋼製スリットダムA型 図 c 鋼製スリットダムB型 図 d 鋼製L型スリットダム</p>	
外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たり測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		

編	章	節	条	枝番	工 種	種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	(仮)	部材の水平度	10
							堤 長 L	±30
							堤 長 ℓ	±10
							堤 幅 W	±30
							堤 幅 w	±10
							高 さ H	±10
							ベースプレートの高さ	±10
本体の傾き	±H/500							
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	15		工場塗装工		塗 膜 厚	a. ロット平均膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。ただし、測定値が平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（充缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1 ロットの大きさは500 m <sup>2</sup> とする。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合 は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合 は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3	2	3	16		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。
3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅	設計値以上
						厚さ	t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>
						延長	L
3	2	4	3	1	基礎工(護岸) (現場打)	基準高	▽
						幅	w
						高さ	h
3	2	4	3	1	基礎工(護岸) (現場打)	延長	L

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p><math>d = \sqrt{x^2 + y^2}</math></p>	
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p><math>d = \sqrt{x^2 + y^2}</math></p>	
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p><math>d = \sqrt{x^2 + y^2}</math></p>	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工(護岸) (プレキヤスト)	基準高 ▽	±30
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高 ▽	±50
						根入長	設計値以上
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基準高 ▽	±50
						根入長	設計値以上
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内
						杭径	{設計径(公称径) - 30} 以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基準高 ▽	±50
						根入長	設計値以上
						偏心量 d	150 以内

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーン基礎工	基準高 $\nabla$	±100
						ケーソンの長さ $l$	-50
						ケーソンの幅 $w$	-50
						ケーソンの高さ $h$	-100
						ケーソンの壁厚 $t$	-20
						偏心量 $d$	300 以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高 $\nabla$	±100
						ケーソンの長さ $l$	-50
						ケーソンの幅 $w$	-50
						ケーソンの高さ $h$	-100
						ケーソンの壁厚 $t$	-20
						偏心量 $d$	300 以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基準高 $\nabla$	±100
						根入長	設計値以上
						偏心量 $d$	300 以内

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3	土木工事共通編	5 石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$
						法長 $\ell$	-50
						厚さ(ブロック積張) $t_1$	-100
						厚さ(裏込) $t_2$	-50
						延 長 $L$	-200
3	土木工事共通編	5 石・ブロック積(張)工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$
						法 長 $\ell$	-100
						延長 $L_1, L_2$	-200
3	土木工事共通編	5 石・ブロック積(張)工	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$
						幅 $w$	-100
						延 長 $L$	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工	基準高▽	±50	
						法長ℓ	ℓ < 3 m	-50
							ℓ ≥ 3 m	-100
						厚さ（ブロック）t <sub>1</sub>	-50	
						厚さ（裏込）t <sub>2</sub>	-50	
						延長L	-200	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工	基準高▽	±50	
						法長ℓ	ℓ < 3 m	-50
							ℓ ≥ 3 m	-100
						厚さ（石積・張）t <sub>1</sub>	-50	
						厚さ（裏込）t <sub>2</sub>	-50	
						延長L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合 は 50m）につき 1 箇所、延長 40m （又は 50m）以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端 部の 2 箇所を測定。</p>		
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合 は 50m）につき 1 箇所、延長 40m （又は 50m）以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端 部の 2 箇所を測定。</p>		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が 10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合は該当する。 小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、施工面積で 10,000m <sup>2</sup> 未満あるいは基層および表層用混合物の総使用量が 3,000t 未満の場合が該当する。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 上層路盤施工前に、下層路盤における基準高の確認を行い、必要に応じて補足材によるレベリングを行うこと。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	中規模以上	小規模以下
3	土 木 工 事 共 通 編	6	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模以上	±40	±50	—	—
						小規模以下	—45	—45	—15	—15
						幅	—50	—50	—	—
3	土 木 工 事 共 通 編	6	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 幅	中規模以上	—25	—30	—8	—10
						小規模以下	—50	—50	—	—
						幅	—50	—50	—	—

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能ないし、舗装施工面積が10,000㎡以上ある場合は基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合、施工面積で10,000㎡未満あるいは基層および表層用混合物の総使用量が3,000t未満の場合が該当する。</p> <p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値(X<sub>10</sub>)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )	小規模以下
3	土木工事共通編	6	1	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	中規模以上 -25	中規模以上 -30	小規模以下 -10
						幅	-50	-50	-
3	土木工事共通編	6	1	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ	中規模以上 -15	中規模以上 -20	小規模以下 -7
						幅	-50	-50	-



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )	小規模 以下
3	2	6	5	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3	2	6	5	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3	2	6	5	6	アスファルト舗装工 (表層工)	平坦性	—	—	—
							3mプロファイル ( $\sigma$ )2.4mm以下 直読式 (足付き) ( $\sigma$ )1.75mm以 下	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方で、中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合は該当する。 小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、施工面積で10,000m <sup>2</sup> 未満あるいは基層および表層用混合物の総使用量が3,000t未満の場合は該当する。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値( $X_{10}$ )について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方は、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。厚さは、個々の測定値が 10 個以上9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとするとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなげればならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>コア一採取について橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	

規格値	測定項目	工種	枝番	条	節	章	編						
								個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
<table border="1"> <tr> <td>中規模以上</td> <td>±40</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>小規模以下</td> <td>±50</td> <td>—</td> </tr> </table>	中規模以上	±40	—	小規模以下	±50	—	基準高▽	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	1	6	6	2	3
中規模以上	±40	—											
小規模以下	±50	—											
—45	厚さ												
—50	幅												
—25	厚さ	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	2	6	6	2	3						
—30	幅												
—50													
—8													
—													

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> )	中規模以上
3	2	1	6	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	厚さ	中規模以上	中規模以上	
						幅	小規模以下	中規模以上	
3	2	1	6	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚さ	中規模以上	中規模以上	
						幅	小規模以下	中規模以上	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
3	土 木 工 事 共 通 編	6	6	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工)	厚	—10	—3.5	
						幅	—25	—	
						平坦性	—	コンクリートの 硬化後 3mプロ ファイルメータ —により機械舗 設の場合 (σ)2.4mm 以下 人力舗設の場合 (σ)3mm 以下	
						目地段差	±2		
3	土 木 工 事 共 通 編	6	6	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—
						厚	—45	—15	—
						幅	—50	—	—
3	土 木 工 事 共 通 編	6	6	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工	厚	—25	—30	—8
						幅	—50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上で測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割りで測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1m の線上、全延長とする。	工事規模の考え方で、中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。また、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
基準高は、延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 ( $X_{10}$ )
3	2	6	8	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント (石灰・瀝青) 安定処理工	厚	-25	-8
						幅	-50	—
3	2	6	9	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚	-9	-3
						幅	-25	—
3	2	6	10	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚	-15	-4.5
						幅	-35	—
						平坦性	—	転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより ( $\sigma$ )2.4mm以下。
						目地段差	±2	

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコア一を採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方で、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 未満。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコア一を採取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の場合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 ( $X_{10}$ ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
3	土木工事共通編	2	一般施工	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	中規模以上	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	中規模以上
						厚さ	±40	±50	—
						幅	—45	—50	—15
3	土木工事共通編	2	一般施工	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	中規模以上	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	中規模以上
						幅	—25	—30	—8
							—50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、延長40m毎に1箇所を割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方は、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長80m毎に1箇所を割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )	中規模以上
3	2	6	7	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚	-25	-30	-8
						幅	-50	-	-
3	2	6	7	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚	-15	-20	-5
						幅	-50	-	-
3	2	6	7	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚	-9	-12	-3
						幅	-25	-	-

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方で、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の場合で規格値を満足しなければならぬと、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。		

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方は、中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。</p> <p>小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。</p> <p>厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (<math>\bar{X}_{10}</math>) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 ( $\bar{X}_{10}$ )	中規模以上
3	土木工事共通編	1	8	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚さ	—45	—15	—
						幅	—50	—	—
3	土木工事共通編	2	8	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	—25	—30	—8
						幅	—50	—	—



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )	中規模 以上
3	2	6	8	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚	-25	-30	-8
						幅	-50	-	-
3	2	6	8	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚	-15	-20	-5
						幅	-50	-	-
3	2	6	8	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚	-9	-12	-3
						幅	-25	-	-

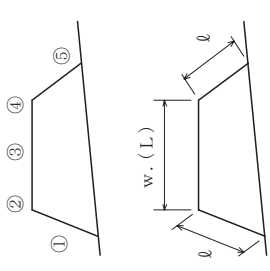
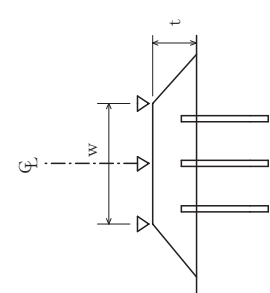
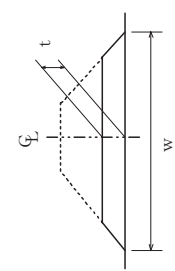
測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方で、中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の場合で規格値を満足しなければならぬと、10個の測定値の平均値( $X_{10}$ )について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$
						施工厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$
						置換厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延長 L	-200

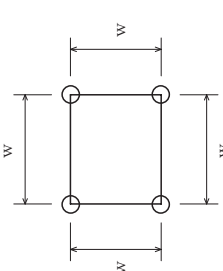
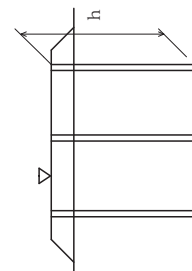
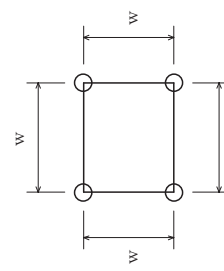
測定基準	測定箇所	摘要
延長 40m 毎に 1 箇所 の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 10mにつき、1測点当たり5点以上測定。</p> <p>w. (L) は施工延長 40mにつき1箇所、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。</p>		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4	2	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高	特記仕様書に 明示	
						法	-500	
						天端幅	w	-300
		天端延長	L	-500				
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高	±50	
						厚さ	t	-50
						幅	w	-100
		延長	L	-200				
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ	t	-50
						幅	w	-100
						延長	L	-200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 簡 所	摘 要
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパーボードレーンの杭径は対象外とする。 全本数</p>	  <p>※余長は、適用除外</p>	
<p>全本数 計器管理にかえることができる。</p>		
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。 全本数</p>		

編 章 節 条	種 工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編 2 一 般 施 工 7 地 盤 改 良 工	<p>バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパーボードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)</p> <p>締め改良工 (サンドコンパクションパイル工)</p>	位置・間隔w	±100
		杭 径 D	設計値以上
3 土 木 工 事 共 通 編 2 一 般 施 工 7 地 盤 改 良 工	<p>固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)</p>	打 込 長 さ h	設計値以上
		<p>サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量</p>	—
3 土 木 工 事 共 通 編 2 一 般 施 工 7 地 盤 改 良 工	<p>固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)</p>	基 準 高 ▽	-50
		位置・間隔w	D/4以内
3 土 木 工 事 共 通 編 2 一 般 施 工 7 地 盤 改 良 工	<p>固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)</p>	杭 径 D	設計値以上
		深 度 $\phi$	設計値以上

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		
全数 (任意仮設は除く)		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 50m につき 1 箇所。 延長 50m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高▽	±100
						根 入 長	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アーカー工)	削孔深さℓ	設計深さ以上
						配置誤差 d	100
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100
						延長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高▽	-50
						天 端 幅 w	-100
						法 長 ℓ	-100

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 $\nabla$	-50
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	9		地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 $\nabla$	±50
						連 壁 の 長 さ $\ell$	-50
						変 位	300
						壁 体 長 $L$	-200
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10		地中連続壁工 (柱列式)	基 準 高 $\nabla$	±50
						連 壁 の 長 さ $\ell$	-50
						変 位 $d$	D/4 以内
						壁 体 長 $L$	-200
3	土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	22		法面吹付工	法 長 $\ell$	-50
							-100
						厚 さ $t$	-10
							-20
						但し、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の50%以上 とし、平均厚は設計厚以上	
						延 長 $L$	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		D : 杭径
施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 200 m <sup>2</sup> につき1箇所以上、200 m <sup>2</sup> 以下は2箇所をせん孔により測定。		
1 施工箇所毎		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		

規 格 値	測 定 項 目	種 類	工 種	枝 番	条 目	節 目	章 目	編 目
a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗膜厚		現場塗装工		1	1 共通関係	3 共通施工	3 土木工事共通編

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3	3	3	2		場所打擁壁工	基準高	±50
						厚さ	-20
						裏込厚さ	-50
						幅	-30
						高さ	-50
						高さ h	-100
						延長 L	-200
3	3	3	3		プレキヤスト擁壁工	基準高	±50
						延長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		



単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
全数 (任意仮設は除く)	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

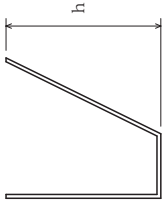
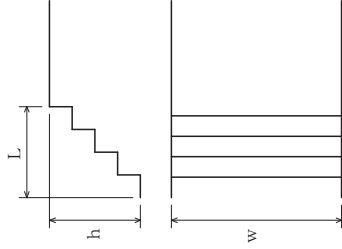
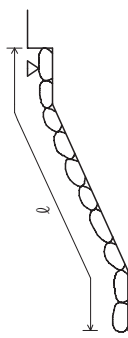
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	4		井桁ブロック工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法長 $\phi$	高さ $h < 3\text{m}$	-50
							高さ $h \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ $t_1, t_2, t_3$	-50	
					延長 $L_1, L_2$	-200		
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	5		アンカー工	削孔深さ $\phi$	設計値以上	
						配置誤差 $d$	100	
						せん孔方向 $\theta$	$\pm 2.5$ 度	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	6		側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	7		現場打水路工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚さ $t_1, t_2$	-20
						幅 w	-30
						高さ $h_1, h_2$	-30
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	8		集水枋工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 $w_1, w_2$	-30
						※高さ $h_1, h_2$	-30
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	9		暗渠工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						幅 $w_1, w_2$	-50
						深さ h	-30
						延長 L	-200

測定基準	測定箇所	概要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。) 1 施工箇所毎		

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
1回/1施工箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	10		刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	±2 …… h ≤ 0.5 ±3 …… 0.5 < h ≤ 1.0 ±4 …… 1.0 < h ≤ 2.0
						外周長 L (m)	± (10+L/10)
3 土木工事共通編	3 共通施工	1 共通関係	11		階段工	幅 w	-30
						高さ h	-30
						長さ L	-30
						段 数	±0 段
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	1		巨石張り、巨石積み	基準高さ ▽	±500
						法 長 ℓ	-200
						延 長 L	-200

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	2		かごマット	法	-100
						長さ $l$	-0.2 t
						厚	-200
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	3		じゃかご	延長 $l$	-50
						長さ $l$	-100
						厚	-50
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	4		ふとんかご、かご枠	高さ h	-100
						延長 $L_1, L_2$	-200

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p> <p>幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
<p>1 組毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		
<p>各格子間の中央部 1 箇所を測定。</p>		


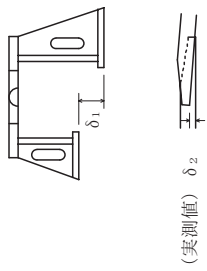
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	5		根固めブロック工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$
						積	
						乱	$\pm t/2$
						厚 さ t	-20
						幅 $w_1$	-20
						幅 $w_2$	$-t/2$
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	6		沈床工	延長 $L_1$	-200
						延長 $L_2$	$-t/2$
						基準高 $\nabla$	$\pm 150$
						幅 w	$\pm 300$
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	7		捨石工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	3 共通施工	2 河川関係	8		護岸付属物工	幅 w	-30
						高 さ h	-30

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
							上限	下限
3 土木工事共通編	3 共通施工	3 海岸関係	1	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	電気船 基準高▽ 200ps 500ps 1000ps 250ps 420ps 600ps 1350ps 幅 延 長 基 準 高 ▽ 幅 延 長 基 準 高 ▽ ※幅 w ※高 さ h 延 長 L	+200	-800
							+200	-1000
							+200	-1200
							+200	-800
							+200	-1000
							+200	-1200
							-200	
							-200	
							上限 +200	
							-200	
3 土木工事共通編	3 共通施工	3 海岸関係	2	2	浚渫船運転工 (グラブ船)	プレキヤストカルバー ト工 (プレキヤストブロック ス工) (プレキヤストパイプ工) 幅 延 長 基 準 高 ▽ ※幅 w ※高 さ h 延 長 L	±30	
							-50	
							-30	
							-200	
							±30	
							-200	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	2	2	落石防護柵工	高 さ h 延 長 L	±30	
							-200	
							±30	
							-200	

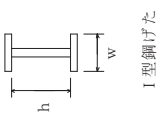
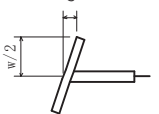
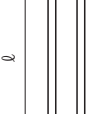
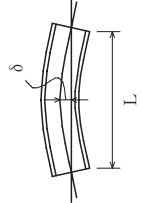
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。</p> <p>横断方向は、5 m毎。</p> <p>また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であると。</p>		
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。</p> <p>横断方向は、5 m毎。</p> <p>また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であると。</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>※印は、現場打部分のある場合。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>※印は、現場打部分のある場合。</p> <p>1 施工箇所毎</p>		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	測 定 箇 所	測 定 基 準
図面の寸法表示箇所での測定。			
製品全数を測定。			
両端及び中央部付近を測定。			
図面の寸法表示箇所での測定。			
図面の寸法表示箇所での測定。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	3		検査路製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$
						材	$\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	4		鋼製伸縮継手製作工	部材長 $w$ (m)	0 ~ +30
						仮組立時 組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm) フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	設 計 値 $\pm 4$ $\pm 2$
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	5		落橋防止装置製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$
						材	$\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	6		鋼製排水管製作工	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$
						材	$\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
各支点及び各支間中央付近を測定。		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主げたについて 10～12m間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	7		プレビーム用桁製作工	フランジ幅 w (m)	±2…w ≤ 0.5
						腹板高 h (m)	±3… 0.5 < w ≤ 1.0 ±4… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/ 2)…2.0 < w
						部材	w/200
						フランジの直角度 δ (mm)	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	8		橋梁用防護柵製作工	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10
						仮組立時	-5～+5 …L ≤ 20 -5～+10 …20 < L ≤ 40
						部材	±3… ℓ ≤ 10 ±4… ℓ > 10



単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
製品全数を測定。		

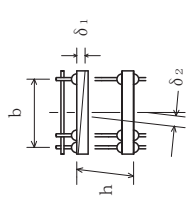
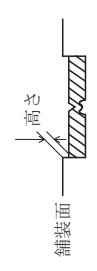
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				
3	土木工事共通編	3	共通施工	4	道路関係	9	1	下部鋼構造物との接合用ボルト孔	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0
									センターボスを基準にした孔位置のずれ	センターボスを基準にした孔位置のずれ	
									中心距離	≤100mm	1以下
										センターボスを基準にした孔位置のずれ	
										>100mm	1.5以下
										孔の直径	+3 -1
										>100mm	+4 -2
										孔の中心距離	JIS B 0403-95 CT13
										ボスの直径	+0 -1
										ボスの高さ	+1 -0

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
3	土木工事共通編	3	共通施工	4	道路関係	9	1	上巻の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13
								全移動量 $\ell$	$\pm 2$
								$\ell > 300\text{mm}$	$\pm \ell / 100$
								上、下面加工仕上げ	$\pm 3$
								組立高さ H	$\pm 3$
								コンクリート構造用	(H/200+3) 小数点以下切り捨て
								普通寸法	JIS B 0403-95 CT14
								普通寸法	JIS B 0403-95 CT15
								削り加工寸法	JIS B 0405-91 粗級
								ガス切断寸法	JIS B 0417-79 B 級
3	土木工事共通編	3	共通施工	4	道路関係	9	2	幅 w	0 ~ +5
								長さ L	0 ~ +1 %
								直径 D	0 ~ +15
								厚さ t	$\pm 0.5$
								厚さ t	$\pm 2.5\%$
								厚さ t	$\pm 4$
								平面度	1
								平面度	1
								平面度	1
								平面度	1

測定基準	測定箇所	摘要
<p>製品全数を測定。</p> <p>※ 1) 片面削り加工も含む。</p> <p>※ 2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に對しては CT13 を適用する。</p>		
<p>製品全数を測定。</p> <p>平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差</p>		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸心上全数測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 mm に 1 箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。		
1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		
両端及び中央部付近を測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	10		アンカーフレーム製作工	上面水平度 $\delta_1$ (mm)	b/500
						鉛直度 $\delta_2$ (mm)	h/500
						高さ h (mm)	±5
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	11		仮設材製作工	部材長 $\ell$ (m)	±3…… $\ell \leq 10$ ±4…… $\ell > 10$
						部材	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	12		床版・横組工	基準高 $\nabla$	±20
						幅 w	0～+30
						厚 さ t	-10～+20
						鉄筋のかぶり	設計値以上
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋間隔	±20
						上記鉄筋の有効高さがマインナスの場合	±10
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	13	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	舗装面に対し 0～-2
						表面の凹凸	3
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～-2

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値
						高さ	掘付け高さ 車線方向各点誤差 の相対差	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	13	2	伸縮装置工 (鋼製フィンゲージ イイント)	高さ	±3	
						表面の凹凸	3	
						歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	2	
						縦方向間隔	±2	
					横方向間隔	±5		
					仕上げ高さ	舗装面に対し 0～-2		
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	14		地覆工	地覆の幅 $w_1$	-10～+20	
						地覆の高さ $h$	-10～+20	
						有効幅員 $w_2$	0～+30	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	15		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 $w$	-5～+10	
						高さ $h$	-20～+30	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	16		検査路工	幅	±3	
						高さ	±4	

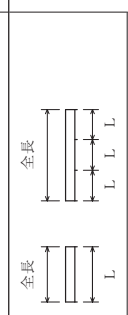
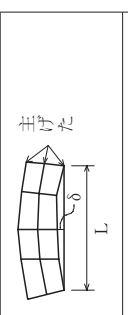
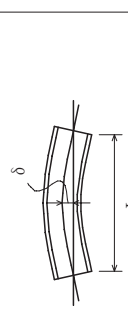
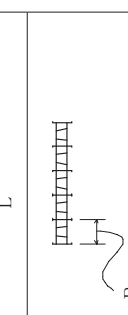
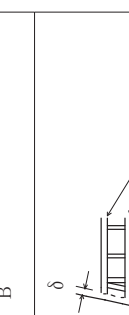
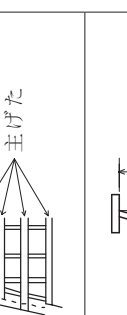
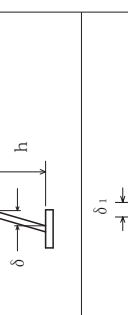
測定基準	測定箇所	摘要
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 ブロックを抽出して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
							コンクリート橋	鋼橋
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B-2)
						支承の水平度	1 / 100	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	橋軸直角方向	5	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B-2)
						支承の水平度	1 / 300	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	17	2	支承工 (ゴム支承)	橋軸直角方向	5	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)</p> <p>支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量δを考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量δを考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各けた毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
L：主げた・主構の支間長(m)		
主げた、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主げた(主構)端を測定。		
各主げたの両端部を測定。 h：主げた・主構の高さ(mm)		
主げた、主構の全継手数の1/2を測定。 delta 1, delta 2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナスを認めない。		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

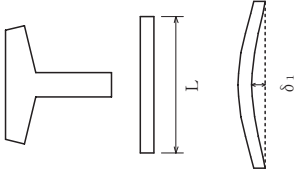
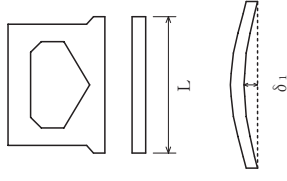
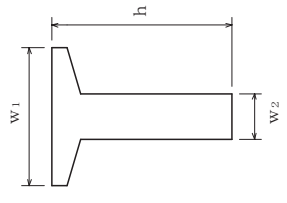
※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「主げた、主構の鉛直度 delta」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

編 号	章 節	条 目	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	3	4	架設工(鋼橋) (クレーン架設) (クレーン架設) (クレーン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラバラークレーン架設)	全長・支間長 L (m)  通 り delta (mm)  そ り delta (mm)  ※主げた、主構の 中心間距離 B(m)  ※主げたの橋端に おける出入差 delta (mm)  ※主げた、主構の 鉛直度 delta (mm)  ※現場継手部 のすき間 delta 1, delta 2 (mm)	±(20+L/5)  ±(10+2L/5)  ±(25+L/2)  ±4..... B ≤ 2 ±(3+B/2)..... B > 2  設計値 ±10  3+h/1,000  設計値 ±5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	19	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (mm)	±L/1000
						断面の外形寸法	±5
						橋 桁 の そ り $\delta_1$	±8
					横方向の曲がり $\delta_2$	±10	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	19	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (mm)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m
						断面の外形寸法	±5
						橋 桁 の そ り $\delta_1$	±8
					横方向の曲がり $\delta_2$	±10	
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	20	ポストテンション桁 製作工	幅 (上) $w_1$	+10 -5	
					幅 (下) $w_2$	±5	
					高 さ h	+10 -5	
					桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell$ -5) <small>かつ</small>	
					支 間 長	-30mm以内	
					横方向最大タワミ	0.8 $\ell$	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は、JIS 製品に準ずる。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は、JIS 認定工場の成績表にかえることができる。 JIS 製品以外は、JIS 製品に準ずる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレス シング後測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 $\ell$ ：支間長 (m)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレストコンクリート後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。  $\ell$ ：支間長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。  ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-4-12床版・横組工に準ずる。  $\ell$ ：桁長 (m)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	21		プレキャストセグメント製作工 (購入工)	桁 長 $\ell$	—
						断面の外形寸法 (mm)	—
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	22		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 $\ell$
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	23		PCホロースラブ製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						幅 $w_1, w_2$	-5 ~ +30
						厚 さ t	-10 ~ +20
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ -30 以内



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	24		PC箱桁製作工	基準高	±20
						幅(上) $w_1$	-5～+30
						幅(下) $w_2$	-5～+30
						内空幅 $w_3$	±5
						高さ $h_1$	+10 -5
						内空高さ $h_2$	+10 -5
						桁長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ -30以内
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	25		PC押出し箱桁製作工	幅(上) $w_1$	-5～+30
						幅(下) $w_2$	-5～+30
						内空幅 $w_3$	±5
						高さ $h_1$	+10 -5
						内空高さ $h_2$	+10 -5
						桁長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ -30以内
						3 土木工事共通編	3 共通施工
桁の中心間距離	—						
そり	—						

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-12床版・横組工に準ずる。 <math>\ell</math> : 桁長 (m)</p>		
<p>桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-4-12床版・横組工に準ずる。 <math>\ell</math> : 桁長 (m)</p>		
<p>各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 主桁を全数測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 ( $X_{10}$ )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上 小規模以下
3	3 共通施工	4 道路関係	27	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	-45	-45	-15
						幅	-50	-50	—
3	3 共通施工	4 道路関係	27	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8
						幅	-50	-50	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方は、中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が 10,000m<sup>2</sup> 以上ある場合は、基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合は該当する。小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、施工面積で 10,000m<sup>2</sup> 未満ある場合は、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000t 未満の場合が該当する。</p>	
<p>幅は、延長 80 m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (<math>X_{10}</math>) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコ アーを採取もしくは掘り起こして測 定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能ないしある いは、舗装施工面積が 10,000m <sup>2</sup> 以上ある 量は、基層および表層用混合物の総使用 量が、3,000 t 以上の場合は、管理結果を 小規模以下の工事とは、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事とい い、同一工種の施工が数日連続する場 合で、施工面積で 10,000m <sup>2</sup> 未満あるい は基層および表層用混合物の総使用量 が 3,000t 未満の場合は該当する。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコ アーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適 用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコ アーを採取して測定。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個の割で コア一を採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (X <sub>10</sub> )		
3	3	4	27	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚	さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅		小規模 以下	小規模 以下	小規模 以下
3	3	4	27	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚	さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅		小規模 以下	小規模 以下	小規模 以下
3	3	4	27	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚	さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅		小規模 以下	小規模 以下	小規模 以下
3	3	4	27	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚	さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅		小規模 以下	小規模 以下	小規模 以下
3	3	4	27		平坦性	厚	さ	中規模 以上	中規模 以上	小規模 以下
						幅		小規模 以下	小規模 以下	小規模 以下

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> )	小規模以下
3	土木工事共通編	4	28	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚さ	-45	-45	-15
						幅	-50	-50	—
3	土木工事共通編	4	28	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8
						幅	-50	-50	—
3	土木工事共通編	4	28	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	-25	-30	-8
						幅	-50	-50	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所割りとし、道路中心線及び端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所割り測定。</p>	<p>工事規模の考え方は、管理図等を描いた上で管理可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000m<sup>2</sup>以上ある場合は基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合は該当する。</p> <p>小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合、施工面積で10,000m<sup>2</sup>未満あるいは基層および表層用混合物の総使用量が3,000t未満の場合が該当する。</p>	
<p>幅は、延長80m毎に1箇所割りとし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値(X<sub>10</sub>)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長80m毎に1箇所割りとし、厚さは、1000m<sup>2</sup>に1個の割合でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。</p>	<p>コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	
						厚 寸	中規模以上	小規模以下	小規模以下
3	3	4	28	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 寸	-15	-20	-7
						幅	-50	-50	-
3	3	4	28	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 寸	-9	-12	-4
						幅	-25	-25	-
3	3	4	28	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 寸	-7	-9	-3
						幅	-25	-25	-
						平坦性	-		3mプロファイルター直読式(足付き) (σ)1.75mm以下

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合は該当する。 小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、施工面積で10,000m <sup>2</sup> 未満あるいは基層および表層用混合物の総使用量が3,000t未満の場合は該当する。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )	小規模以下	
3	3	4	29	1	グーラスアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	中規模以上 -15	中規模以上 -20	中規模以上 -5	小規模以下 -7
						幅	-50	-50	-	-
3	3	4	29	2	グーラスアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	-	-
3	3	4	29	3	グーラスアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	-	-
						平坦性			3mプロファイル (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下	

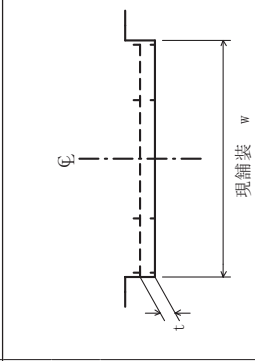

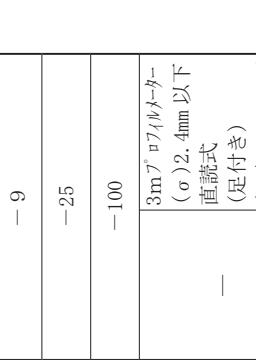
測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能ないし、舗装施工面積が 10,000m <sup>2</sup> 以上ある場合は、基礎および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合は該当する。 小規模以下の工事とは、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合、施工面積で 10,000m <sup>2</sup> 未満あるいは基礎および表層用混合物の総使用量が 3,000t 未満の場合は該当する。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長 40m 毎に 1 箇所分割で測定。            厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所掘り起こして測定。            幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所測定。            ※歩道舗装に適用する。</p>		
<p>幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所分割で測定。            厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所コアを採取して測定。            ※歩道舗装に適用する。</p>		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>0</sub> )
3	土木工事共通編	4	道路関係	30	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	中規模以上	—
							小規模以下	—
							±50	—
3	土木工事共通編	4	道路関係	30	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	t < 15cm	-10
							t ≥ 15cm	-15
							-45	-15
3	土木工事共通編	4	道路関係	30	透水性舗装工 (表層工)	幅	-100	—
							—	—
							—	—
3	土木工事共通編	4	道路関係	30	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	-9	-3
							-25	—
							—	—

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは40m毎に現鋪装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎1箇所/1施工箇所		
厚さは40m毎に現鋪装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長80m毎に1箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		
全数測定		
全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)		

編	章	節	枝番	工種	測定項目	規格値	
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>0</sub> )
3	土木工事共通編	4	道路関係	路面切削工	厚さ t	-7	-2
					幅 w	-25	-
3	土木工事共通編	4	道路関係	舗装打換え工	幅 w	-50	-
					延長 L	-100	-
					厚さ t	該当工種	-
					幅 w	-25	-
					延長 L	-100	-
					厚さ t	該当工種	-
3	土木工事共通編	4	道路関係	オーバーレイ工	厚さ t	-9	-
					幅 w	-25	-
					延長 L	-100	-
					平坦性	-	3mプロファイルメーカー (σ)2.4mm以下直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下
					アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	-
					アンカーボルト定着長	-20以内 かつ -1D以内	-
3	土木工事共通編	4	道路関係	落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	-
					アンカーボルト定着長	-20以内 かつ -1D以内	-